

# 小麦「枯熟れ様障害」の発生要因と対策

## 1 はじめに

県内の小麦は、成熟期前に葉が急速に枯れ上がる「枯熟れ様障害」が見られ、収穫量が不安定となっています。この症状は、年次や圃場によって発生程度が大きく異なり、詳しい原因がわかっていませんでした。そこで、現地調査を実施し発生要因を明らかにするとともに、その対策技術を検討しました。

## 2 小麦「枯熟れ様障害」の発生要因

小麦「枯熟れ様障害」の発生要因は、①大型トラクターの踏圧により耕盤層が非常に硬く、また耕深が浅いため、小麦の根の張りが悪い。②下層土が礫を多く含み、保水力が乏しい。③温暖化に伴う高温・少雨です。また、これら3つの条件が重なると多発することがわかりました。

## 3 小麦「枯熟れ様障害」の対策技術

本症状の改善策としては、①小麦の播種前に圃場を深く耕して、小麦の根域を1確保すること。②小麦生育後半に適切な窒素施肥を行うことです。もし、耕盤の破壊により水稲作への影響が心配される場合は、年々少しずつ深くするよう努めてください。この改善策によって、現地圃場では小麦の葉色が生育後半まで維持され、穂数と精麦重が増加しています。



写真1 小麦「枯熟れ様障害」が発生する現地圃場の様子  
注) 写真左の手前は健全株、奥側は被害株を示す。写真右は小麦「枯熟れ様障害」の発生しやすい旧河川の氾濫跡地を表す。

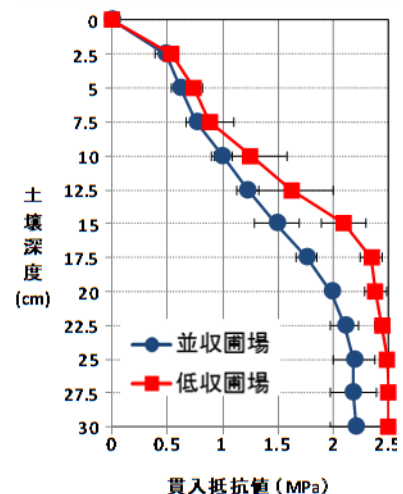


図1 現地圃場の土壌硬度について  
注) 植物の根は、1.5Mpa以上の土壌硬度で生育阻害が起こりやすい。上記のグラフは平均値、エラーバーは標準誤差を示す。

### 【問い合わせ先】

埼玉県農業技術研究センター生産環境・安全管理研究担当  
電話：048-536-0311（代表） FAX：048-536-0315（代表）